

産業の動向

中国の太陽電池輸出額、欧州向けシェアが大きく低下

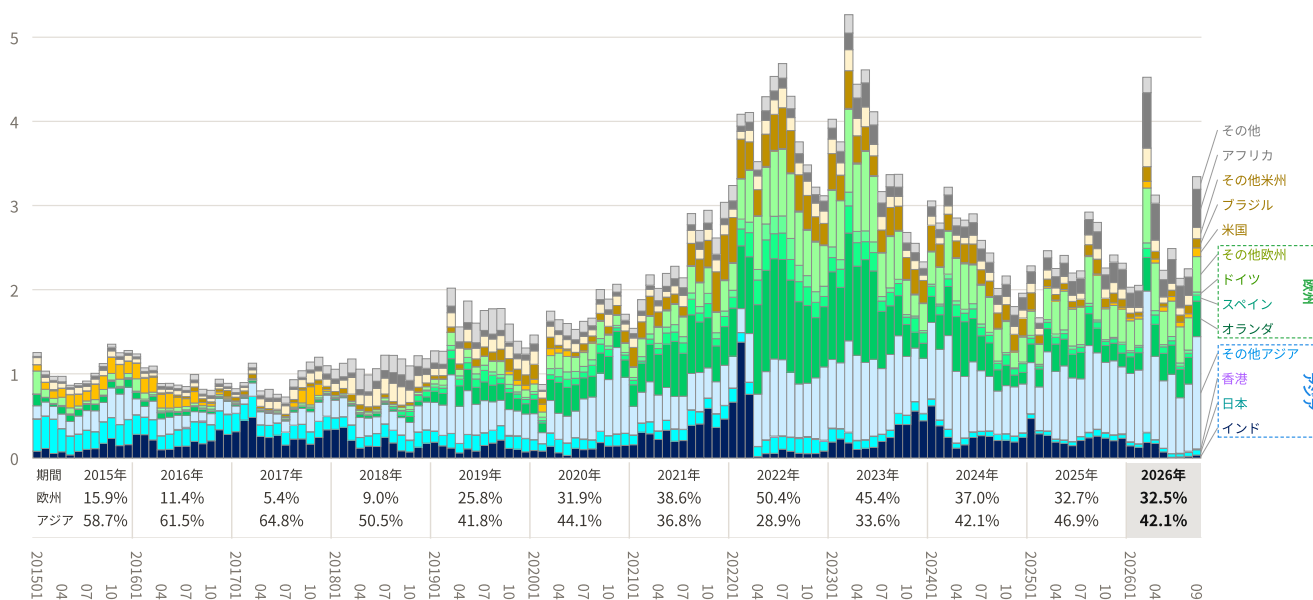
中国の太陽電池輸出額は2022-23年に大きく拡大した後、2024年以降低い水準で推移したが、2026年3月には急増し、4月も高水準となった。中国では4月1日から太陽光関連製品の増値税輸出還付が廃止されており、政策変更前の前倒し出荷が3月の増加の主要因とみられる。その後9月にかけても輸出額には再び増加の動きがみられる。2月末以降のホルムズ危機を受けたエネルギー安全保障への関心の高まりも需要を押し上げた可能性があるが、2022-23年のピークには届いていない。一方、輸出先の構成は大きく変化し、欧州向けシェアは2022年の50.4%から2026年1-9月には32.5%へ低下し、アジア向けは28.9%から42.1%へ上昇した。欧州への集中が弱まり、アジアなどへの市場の再編が進む一方、中国では依然として太陽光関連製品の供給能力が需要を大きく上回っており、新たな輸出市場の拡大が過剰供給をどこまで吸収できるかは不透明である。

野村浩二・稲場翔（慶應義塾大学産業研究所）

2026年10月24日

ホルムズ危機後も輸出額は2022-23年のピークを下回る

2015年1月-2026年9月における中国の太陽電池輸出額の相手国別推移（月次）



単位：十億米ドル。出典：中国海関総署（GACC）Customs Statistics（APO Productivity Databook 2026, Box 5, Figure 4.13をもとに2015-16年を遡り追加し、2026年9月分まで更新）。

注：太陽電池は、2021年以前についてはHS85414020、2022年以降についてはHS85414200とHS85414300の合計により定義。図中の表は各年の輸出総額に対する各地域のシェアを示す。2026年は1-9月におけるシェア。

エネルギーモニター | EM2616 慶應義塾大学産業研究所

エネルギーモニターについて

エネルギーモニター（Energy Monitor：EM）は、主要国のエネルギーコスト・需給および産業の動向を紹介するニュースレターです。分析は、エネルギーコスト・モニタリング（Energy Cost Monitoring：ECM）が毎月公表するECM Database、およびその基礎資料となる国内外の公的統計に基づきます。掲載する各指標は、基礎データの更新・拡充や推計方法の改善に伴い、今後改訂される場合があります。

リンク

[エネルギーモニター](#)[ECM Japan](#)[ECM Dashboard](#)

エネルギーモニターのバックナンバーおよびニュースレター配信の登録は専用サイト、ECM各種指標の国内動向はECM Japan、国際比較はECM Dashboardをご覧ください。